



准教授

生方 俊

ウブカタ タカシ



大学院工学研究院 機能の創生部門
大学院工学府 機能発現工学専攻 先端物質化学コース
工学部 物質工学科 化学コース
理工学部 化学・生命系学科 化学教育プログラム
ubukata@ynu.ac.jp
http://www.ubukata-lab.ynu.ac.jp/

化学
複合化学

機能物性化学

光化学
光機能化学
フォトクロミズム
光誘起物質移動
高分子分散型液晶

【研究概要】

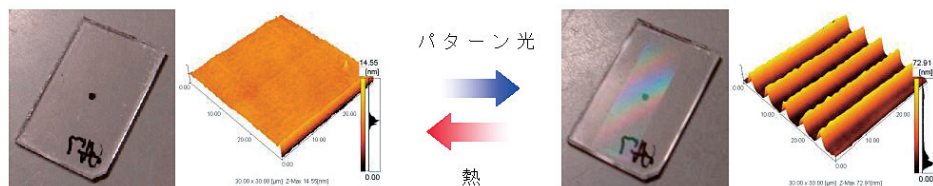
光吸収をきっかけとして分子構造が可逆的に変化し、そのバルク材料の色調が変化する現象はフォトクロミズムと呼ばれ、その現象を示す化合物はフォトクロミック化合物と呼ばれます。我々は、このフォトクロミック化合物の性質を利用して、光記録材料や光スイッチング材料の創生を目指しています。特に、光による分子構造変化という分子の動きが、ナノメートルからマイクロメートルのオーダーでのバルク材料の変形や液晶化合物の配列変化に繋がる新規機能性材料の創生に興味を持って研究を進めています。

【アドバンテージ】

図は、空間パターン光照射前後のフォトクロミック化合物の薄膜を示しています。フォトクロミック化合物がパターン光に応じて、マイクロメートルスケールで移動することで微細な凹凸構造を形成しています。この凹凸構造は、フォトリソグラフィーの手法で作製される凹凸構造とは異なり、消去・再形成することが可能です。

【事例紹介】

動的に制御可能なホログラフィックメモリ、液晶配向膜、回折格子、導波路カップラ、DFBレーザなどの有機光学材料としての可能性を探索しています。



パターン光と熱によって可逆的に構造変化する有機薄膜

■ 相談に応じられるテーマ

紫外・可視光による物性制御
液晶・高分子薄膜の構築

■ 主な所属学会

高分子学会
日本化学会
光化学協会
日本液晶学会

■ 主な論文

『Facile one-step photopatterning of polystyrene films』
「Polym. J.」, 44, 966-972.」2012.8
『Phototriggered micromanufacturing using photoresponsive amorphous spirooxazine films』「J. Mater. Chem.」, 22, 14410-14417」2012.8
『フォトクロミック化合物の光誘起物質移動現象』「光化学」, 40, 85-88」2009.8

『Reversible phototriggered micromanufacturing using amorphous photoresponsive spirooxazine film』「J. Mater. Chem.」, 19, 3373-3377」2009.5

『光誘起物質移動による表面レリーフの創製と応用』「高分子論文集」, 65, 536-545」2008.8

■ 主な特許

「感光性組成物及びパターン形成方法」W02006/095705 A1
「発振波長可変の有機分布帰還型レーザ」特許第 4415113号
「感光性組成物、感光性薄膜、及びパターン形成方法」特許第 3451319号

■ 主な著書

「光機能性高分子材料の新たな潮流 - 最新技術とその展望 -」シーエムシー出版 2008
「Progress in Advanced Materials Research」Nova Science Publishers, Inc. 2007
「光機能性有機・高分子材料の新局面」シーエムシー出版 2002